

編集後記

空梅雨の後の集中豪雨、さらに多量の雨を伴った台風10号により、方々に大きな被害があった事をテレビ、ラジオ、新聞で盛んに報じている。被災された方々には心から御見舞い申し上げる。

さてこの号は「足の構造と機能」が特集のテーマである。なぜ殊更に足を選んだか、というと、足の持つ2つの重要な意味に前々から注目していたためである。まず、移動の際に足は必ず必要なものである。次にヒトの足は他の生物の足と比較すると、はっきりと異なった点、つまり属性を示すものでもある。

リハビリテーション医学関係者の1人としては、前の方の意味が特に重要であり、それなりに面白く研究もせねばならないことである。しかし後者について研究されている方も、きっと面白くてたまらないというふうに感じて居られることであろう。

さて土肥氏は足関節、足部の機能解剖について、須田氏は足の発達を形態学的に、また成人歩行の足部の機能を床反力から考察を加えて下さった。私は数年前、死体解剖で足部を念入りに観察したが、この部分の構造は足底の皮膚、皮下組織に加え、足底腱膜がその上部では短指屈筋を入れる丈夫な中筋膜と連結し、その筋膜は上方へU字形に伸び、母指外転筋や小指外転筋がその側面に1部起始を

持ち、きつくおっていることから、単に足底腱膜のみを切り出したように取り扱うのは誤っているような気がしてならない。まだまだ研究せねばならないテーマが沢山あるということになる。

島津氏のアーチの障害に関する論文はアーチの低下を主に論じたもので、氏の豊富な経験を述べていただくには紙数が少なすぎたように思う。しかしその点をうまくカバーし、興味深い論文にしていた。

わが国の足指の変形に関する研究では加藤氏を除外して語ることはできない。比較的少ないとされている足指の変形も外来で診察する機会が次第に多くなっており、その意味でこの論文を参考にされる方は多いと思う。

水野氏の「ヒトの歩行の起源への考察」については若輩の私がとやかくいうことはない。氏の考察はいつもダイナミックである。立位の概念の中の「佇立」の重要性を指摘されたこともまだ記憶に新しい。この論文も大変興味深く読ませていただいた。

伊藤氏の気泡浴に関する論文、窪田氏の脳卒中患者の歩行維持プログラムの紹介に加え、今田氏の全国肢体不自由者更生施設の調査も重要なものである。講座2編も力作であるため、この号は10巻の中でも大切な号の1冊となるであろう。

(明石 謙)

次号予告(第10巻 第10号)

特集 老人

老化の機序	東大・薬学部	山田 正 篤
老人と栄養	浴風会病院	篠原 恒 樹
老人の体力と運動処方	東大・教育学部	宮下 充 正
精神老年医学 psychogeriatrics について	東大・老人科	江藤 文 夫
死にゆく人々へのケア	聖隷ホスピス	斉藤 武

論 説

リハビリテーションにおける歩行分析の役割と今後の課題	中伊豆リハセンター	窪田 俊 夫
----------------------------	-----------	--------

研究と報告

脳卒中片麻痺患者の下肢装具：七沢病院における最近2年間の処方動向	七沢病院	前田 真 治・他
脊髄損傷者アーチェリー選手の体力に関する考察	中伊豆リハセンター	指宿 忠 昭・他

講 座

リハビリテーション医学の評価法9：小児のADL	川崎医大	長谷川 寿美玲
反射2：臨床神経学と反射	千大・神経内科	山田 達 夫

一頁講座

社会リハビリテーション9：スポーツ、リクリエーション、文化活動	国立身障リハセンター	金田 安 正
---------------------------------	------------	--------

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加倉井 周一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長谷川 恒雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)